

環境情報コース	環境情報	氏名 大澤扶美	指導教官 市川智史
論文題目	イルカを資源とした観光施設の課題と方策 —かつもとイルカパークに焦点をあてて—		
<p><はじめに> 近年、水族を扱う施設は、観覧や各種のイベントに工夫を凝らしている。なかでもイルカは、ショーやふれあいをテーマとしたイベントにより、大きな集客源となっている。また、人々の自然に対する関心も高まりつつあり、自然を求めて野外に出かけるなど、野生生物との接触にも、より関心を持つようになってきている。そのような傾向に伴い、イベントを実施する施設も、今後増加していくと考えられる。また一方で、イルカの飼育環境の問題やイベントによるイルカの状態の変動、世界的な鯨類保護などが問題視される部分もある。筆者の出身地である長崎県壱岐郡勝本町にも、イルカを資源とした観光施設として「かつもとイルカパーク」がある。そこで本研究では、イルカという野生生物と人々との共存の一方策として、観光資源化した「かつもとイルカパーク」に焦点をあてて、その課題と今後の方策を考察することを目的とする。具体的には、まず、①かつもとイルカパークの現状と課題を明らかにすることから始め、②全国の施設概況を調べ、③類似施設の事例調査から示唆を得て、これらを通じ、④かつもとイルカパークの今後の方策を考察する。</p>			
<p><調査内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. かつもとイルカパークの概況 2. アンケートによる施設利用者の意識調査 3. イルカを資源とした観光施設の概況・・・1) インターネット検索 2) 郵送アンケート調査 4. 事例調査・・・・・・・・・・6 施設訪問調査 			
<p><調査結果> 以上の調査から明らかとなったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イルカパークの開設は、イルカの漁業害からの打開策の一つであった ・利用者は施設来場時、満足していても、再来場したいと思っている人は少ない ・かつもとイルカパークは地元来場者が少ない ・イルカのイベント充実化、屋内外くつろぎスペースの確保と充実化を利用者は望んでいる ・他施設はイルカにおけるイベントを定着させ、リピーターの確保に努めている ・来場者アンケートや、他施設との情報交換も積極的に行っている ・身障者や、子供における安全の配慮なども徹底されている ・飲食や、ゆっくりとくつろぎながらイルカをみる場所が充実している 			
<p><考察> 調査の結果を踏まえ、今後の方策として、「<u>内容の充実化</u>」、「<u>運営の堅実性</u>」、「<u>現状維持</u>」の3つを挙げ、以下に施設の改善案を示す。</p>			
<p><理想施設構想></p> <ul style="list-style-type: none"> ・餌の時間やトレーニングの時間帯を設定し、飼育係のレクチャーを行う ・現在展示物に加え壱岐の動植物など、壱岐の自然や文化をテーマとした展示物を増やす ・土産物については、海や野生動物にまつわる本や写真、ハガキなどを増やす ・ビデオや本・インターネットを設け、海の生き物やイルカについてなど自由に閲覧できるスペースをつくる ・飼育環境の改善点について、他の施設から情報収集を行う ・天候を気にせずイルカを見ることが出来る屋外観覧席を設置する ・天候を気にせず、誰にでも安全で安心してイルカに接近できる形の栈橋に改善 ・予約制のイベントをつくる ・飲食など、ゆっくりと休憩しながら楽しめるスペースの設置 			